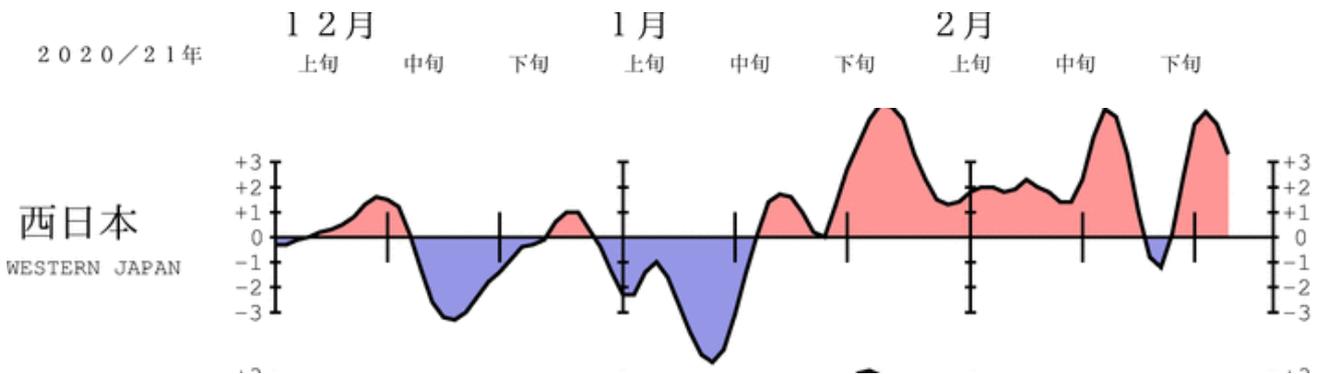


「緊急事態宣言」下の新型コロナ感染拡大もようやく漸く下火、期限待たずに解除の見込みとなった。リバウンドのないことを祈るのみ。気象庁の寒い冬との当初予報は外れ此のところ暖かい日が続いています。これに合わせてか早春の花々が開花し外歩きの眼を楽しませてくれます。今は「ウメ」の満開の季節、普段は目立たない樹木ですが、この季節は別、彼方此方の庭で宴を競っています。年初から細々と咲き残っていたジュウガツザクラなどはすっかり影が薄くなってしまっています。ツバキ、蠟梅、オウバイ、マンサクなどに続きウメの全盛、さらにミモザ（ギンヨウアカシア）、クサボケ、サンシュユ、アセビ、シロバナジンチョウゲ、トサミズキ、ミツバツツジ（園芸種？）なども開花し始めています。

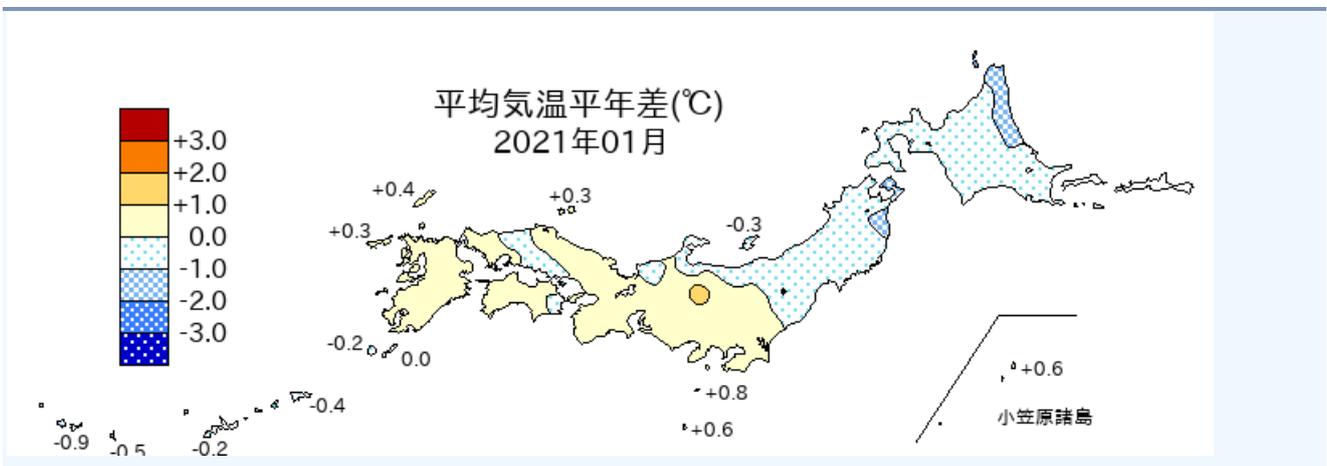
一方「サクラ」の方はソメイヨシノの花芽は固いものの、既報のカワズザクラやヒカンザクラはすでに開花、日に日に存在が目立つようになってきています。本報ではこれ等の状況、および気象庁や気象会社から発表されている、今後のお天気の様子、今年ソメイヨシノの開花予報などについて書くつもりです。

### 1. この冬の気温の推移

・最近発表されている気象庁の「地域平均気温経過図」から、前報に引き続きこの冬の西日本の気温の推移を示しておきます。これから、大まかにこの冬の気温の経過が平年に比べてどのようなようであったかが分かります。また、月単位で日本全国・各地区の気温が平年に比べてどのようなようであったかは、「平均気温平年差」という図面で公表されています。ご参考のため、1月の月平均気温の全国の平年偏差値の図も加えておきます。



日本の気温(月)

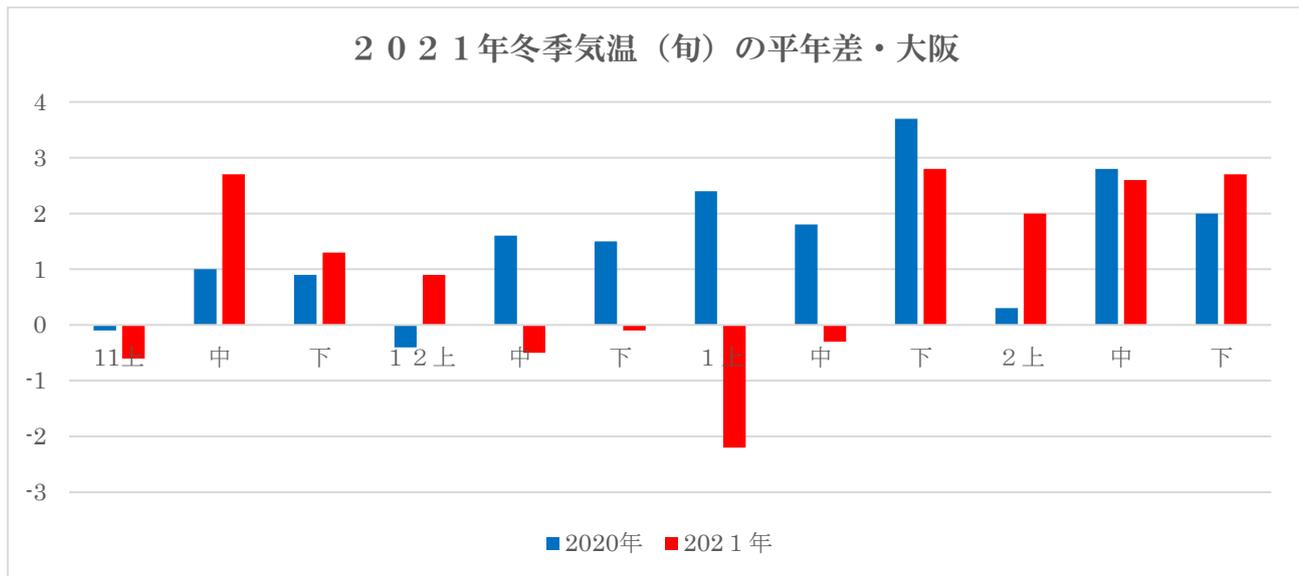


・西日本では12月中旬から1月上旬までは平年をかなり下回る日もあったが、気象庁の当初の

寒い冬との予報に反して1月半ばから2月にかけては平年をかなり上回る暖冬気味に推移して来ていることが分かります。

また、平均気温平年差の図から、この付近では1月中旬までは平年より気温の低い日が続いたようですが、1月の平均としては平年より若干高めであったことが分かります。

\*大阪中心のこの附近の気温の推移を見る目的で、今期の気温（旬平均）を平年値と比べ、その差異をみて見ました。また、比較のために昨年度の値も入れてグラフ化したのが下図です。当然とは言え、上記の気象庁の「地域平均気温経過図」とは良く似たパターンとなりました。昨年度が、12月以降平年を上回る気温であったのに対し、今年は12月中旬~1月中旬にかけては平年以下の気温となった期間があったことがわかります。



## 2. 向う3ヶ月間の天気予報（西日本太平洋側2月25日気象庁発表）

では、今後の気象の見通しは如何でしょう。2月25日に気象庁の発表し「向こう3ヵ月間」の気象予報は以下のとおりです。

・期間の平均気温は、北・東・西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、沖縄・奄美で平年並または少ない確率ともに40%です。

### 3月

東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。確率は、

気温：高い60%、並み30%、低い10%、降水量：多い40%、並み40%、少ない20%

### 4月

西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

気温：高い40%、並み40%、低い20%、降水量：多い20%、並み40%、少ない40%

### 5月

東日本日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温：高い60%、並み30%、低い10%、降水量：多い30%、並み40%、少ない30%

\*気象庁は昨年秋から発生していた、赤道・太平洋ペルー沖のラニーニャ現象により、この冬は偏西風の蛇行によって、日本付近に寒気の流れ込みやすいパターンになることから“寒い冬”となると発表していました。ただ、最近このラニーニャ現象が消滅したことで予報を暖冬気味と変化させて来ています。

### 3. 今年のサクラ（ソメイヨシノ）の開花予想日

気象予報会社2社の発表している今年のソメイヨシノの「開花予想」は現時点下記の通りです。日本気象は上記の気象庁発表を織り込み済み、ウエザオニュース社も25日に前回（18日）の発表を25日に改定しました。

#### \*日本気象（株）2月25日 第5回 全国的に平年より早いかなり早い開花

東京、甲府、福岡で3月15日に開花前線がスタートし、3月末までに東日本・西日本で続々と開花し始める予想。今シーズンは晩秋の高温の影響で全国的に休眠打破が遅れたものの、休眠打破後は平年よりかなり高めの気温で生長が大幅に早まるため、最終的には休眠打破の遅れを大きく取り戻す見込みです。全国的に平年より早いかなり早い開花となるでしょう。

\*東京 3/15 名古屋 3/16 大阪 3/20 福岡 3/15

#### \*ウエザオニュース社 2月25日発表

今年のさくらは、平年よりかなり早い所が多いでしょう。最も早く咲くのは、九州北部となりそうです。前回2/18の予想から大きな変化はありませんが、東北などやや早くなっている地域があります。

今年の冬は、たびたび非常に強い寒気が流れ込みましたが、冬の入り口である11月の気温がかなり高かったため、休眠打破は鈍めの所が多いとみられます。

2月は気温がかなり高くなっていて、この先3月にかけても高い状態が続く見込みです。このため、休眠打破が鈍い影響よりも、2月3月の大幅な高温の影響が大きいと見込み、開花は平年よりかなり早くなりそうです。

\*東京 3/17 名古屋 3/18 大阪 3/20 福岡 3/13

#### \*近畿各地の開花日、満開日の予想

	日本気象株式会社		ウエザオニュース社		C f . 2 0 2 1
	開花日	満開日	開花日	満開日	開花日
彦根	3/22	3/31	3/24	3/31	3/27
京都	3/17	3/27	3/19	3/27	3/22
大阪	3/20	3/28	3/20	3/29	3/23
奈良	3/18	3/26	3/19	3/26	3/26
和歌山	3/17	3/26	3/17	3/25	3/22
神戸	3/20	3/30	3/20	3/29	3/26

### 4. 附近のサクラの開花情報等

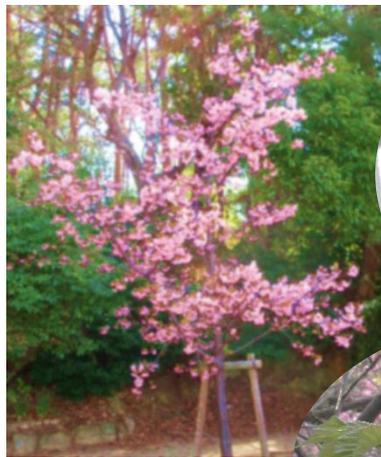
#### 4-1. カワズザクラ

前報では、日本（本州）の早咲きザクラの品種として、あたま桜と河津桜について紹介しました。河津桜については、発祥の地とされる伊豆・河津町の公園や河畔では満開となり、例年とまでは行かなくとも多くの方が訪れているとのニュースがTVで放映されていました。あたま桜と違い河津桜は各地に植栽されておられ、花の少ないシーズンに咲き、しかもピンクの大型の花をびっしりとつける姿はソメイヨシノとは違った風情であり、現代人には好まれるのか今なお分布を広げているようです。最近、神戸でこの花の開花がニュースとなったので調べてみると、灘区の西郷川河口公園と灘浜緑地に数10本が植栽されているとのこと。これ等は震災復興と鎮魂の意味を込めて植樹されたものだそうです。

また、大阪では長居公園や大山公園にも数本が植栽され、京都では淀のほか京都植物園にも

植栽されているとの情報を頂いています。

❁前報で報告致しましたわが散策路の芦屋市東山町の東山公園入口の桜は2月11日が開花日でしたが、現在は写真のように満開となっています。この東山公園には当初、入口の1本と他に若い2本の河津桜しか目についていませんでしたが、奥の山腹の地形と樹木を残した公園内には土地の人たちによって20本ほどの樹が植栽されていることがわかりました。土地の人達は、未だ樹が若く地域の住民しか知らないがその内神戸とおなじような桜の名所となるとご自慢でした。



なお、ごく若い樹（2mほどの若木）では葉の展葉が見られませんでした。

❁また、2月始めから観察を続けてきていた近くの芦屋市・翠ヶ丘の宮川河畔の新築マンションの庭に植えられている河津桜も2月14日開花し現在は5、6分咲きといった状況です。先の東山公園は日当たりのよい丘、こちらは河川の横、しかも建物の西側に位置しているため開花が数日遅れたのではないかと考えています。

皆さまから頂いた情報でも、は当方の東山公園での開花時点で大阪・大仙公園や長居公園の河津桜が2、3分咲き、また20日ごろ、大山公園の9本のうち3本が8分咲き、24日時点で京都植物園では5分咲き程度ではないかとお便りを頂いています。（右の写真）

さらに、先に紹介した発生元の伊豆・河津町内といった狭い地域でも場所によって開花状況がかなり異なるデータが同町観光協会から発表されています。広場に比べ河川堤の桜の開花が数日遅れるようです。

この桜に「休眠打破」などあるのかどうか分かりませんがとにかく冬季の気温差には敏感なようです。



## 4-2 ヒカンザクラ

❁ 本種は南西諸島での気象庁の生物季節観測・サクラの開花標準木となっており本年度の開花日、満開日は既に報告した。早咲きの桜であるが前記の河津桜ほど華やかさはないのでこの附近での植栽も限定的。昨年、偶然芦屋川・河畔で満開となった本種を見つけたので今年は観察の対象として散策ルートに入れ時々見に行っている。冬芽から蕾への成長は下記の通りで、気温が比較的高めであったので急成長？した。



2月12日

2月15日

2月17日

2月19日

この後、冷え込みがあったので開花日は20日ではなく、21日となってしまいました。



5本植栽されている内、2本が開花、昨年の開花日は2月の10日ごろ、多分上述の今期の気温、12月中旬~1月中旬の冷え込みが影響したものと思われます。花は写真のように下向きに咲き、全開しないので地味。開花をこころ待ちしていたのは私だけでなく、早速お客様あり。嘴を花筒に突っ込みお食事の姿です。余談ですが今年はメジロが多いですね。

なお、ヒカンザクラは万博公園内にも植えられているとのことです。



#### 4-3. キンキマメザクラの開花

街中の派手な桜でなく、人里離れた山林内にいち早く咲くサクラとして近畿地方（主として日本海側）では、キンキマメザクラが知られています。もう何年前になるか知りませんが、自然と文化科の3月バス旅行で訪れた、余呉湖・賤ヶ岳周辺の散策中に見た記憶があります。

最近、京都植物園に植栽されている本種3本が3分咲きになっていたとの情報（報告書）を頂いているので掲載させていただきます。



❁ マメザクラの由来は勿論、花が小さいの意味。下向きに咲く。普通のマメザクラにくらべると写真のように萼筒が細長いのが特徴です。

#### 4-4. シナミザクラ（支那実桜）の開花

シナミザクラと聞いても分かりにくいかも知れませんが漢字表示にするとそうかとなります。文字通り、中国原産のサクランボ（1.5cmほど）のなる樹です。花期は早く、3月上旬からとされています。こ。花は花弁五枚一重で直径は2cm程度と小輪。花の色は白から若干紅色を帯びる程度。ひと房に2輪か3輪の花を咲かせ、実もこれに準じ、二つがひと房になっていることが多い（自家受粉する）。雄蕊が長いのが特徴。花びらは180°近くを開く。私の住まい近くでは、3ヶ所の所在が分かっています。内2か所で開花となりました。



写真のように、マンションの北庭に2本植えられており、1本は樹高8mほど、幹は15cmほどの個体です。

“実桜”ですので、立派なサクランボを付けます。自家受粉で結実するので毎年右の写真のように、多くの実をつけます。味は無味？美味しくはありません。むしろ鑑賞むけでしょう。

昨年5月6日の写真ですが、ご参考のため。



#### 4-5. 秋咲きの桜のその後は・・・。

##### \*ジュウガツザクラ、

・最近街中での植栽が増えているようで、私の周りでは6か所9本ほどみられます。若い樹が多くこの冬も1~2分咲きを続けて来ています。同様なおたよりも頂いています。なお、万博の成木は、しっかり冬芽をつけて休眠中とのこと。

##### \*コブクザクラ

一度花が殆どみられなくなりましたが、このところの暖冬で各地で再び花数を増やして来ているようです。

##### \*その他

最近、京都植物園に行かれた方から報告を頂いています。

上記の2種の他、四季桜、不断桜（すでに葉も展用）なども花が散見されたそうです。最も多く花を付けていたのがエレガンスミュキという品種だそうです。

❖エレガンスミュキ（大きく濃いピンク色、華やかに見える改良種。今花数一番多い）



\*本年度、第3報皆さまからの情報を加えまとめさせていただきました。皆さまのご参考となれば幸いです。皆さんの身近な情報、ご意見、質問等なんでも結構ですでお寄せ下さい。

以上